

第22回英語オーラルインタープリテーションコンテスト募集要項
I コンテスト (中学生・高校生) II エキシビション (中学生・高校生・大学生)

The 22nd Nanzan Junior College English Oral Interpretation Contest

- 主 催 南山大学短期大学部, 学生支援プロジェクト「ベタニア」
- 開催趣旨 (旧) 南山短期大学は 1995 年に高校生を対象とした第 1 回大会を開催しました。以来, 英語教育の一環として地域はもちろん, 東海 3 県をはじめ他県の高校生・中学生も参加する大会となりました。本大会はこの分野では唯一の大会であり, 開催を機に, 生徒・学生の英語パフォーマンス力がさらに向上することを切に願います。
- 応募資格 日本の中学校・高等学校・大学 (短期大学も含む) に在学する者。ただし大学生はエキシビションのみ応募可能です。過去に参加された方、受賞された方も応募可能です。
- 部 門
- I コンテスト (中学生・高校生の団体発表)
1つの作品を2人以上で読み上げるもので, 4分以内の作品または作品の抜粋を選び, 読み手の解釈にしたがい音声表現します。
昨年度とコンテストの形式が異なり, 今年度は中学生と高校生の部門には分けません。
- II エキシビション (中学生・高校生・大学生の個人または団体発表)
1つの作品を個人または2人以上で読み上げるもので, 4分以内の作品または作品の抜粋を選び, 読み手の解釈にしたがい音声表現します。審査の対象にはなりません, 発表後コメントをする予定です。
- 日 時 2016 年 11 月 19 日 (土) 12:30 ~ 16:30 (閉会予定)
I コンテスト (中学生・高校生)
II エキシビション (中学生・高校生・大学生)
※閉会後に, 参加者と引率の先生方の交流会を予定しています。
- 会 場 南山大学名古屋キャンパス R 棟 1 階 フラッテンホール (入退場自由・無料)
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18
交通アクセス <http://www.nanzan-u.ac.jp/Information/access.html>
(地下鉄名城線「八事日赤」駅より徒歩 8 分)

■応募方法

2016年9月6日(火)9:00～10月4日(火)15:00

今年度より、昨年度までのエクセルファイルではなく、ウェブ上の受付フォームにてお申し込みいただきます。詳細は9月上旬に短期大学のウェブページにて掲載いたします。

■参加者数

Iコンテストは、先着20組(1校につき2組)までです。IIエキシビションは、中学校・高等学校・大学あわせて先着6組(1校につき1組)までです。複数校で1つの団体として参加も可能です。

■応募に際しての 注意点とお願い

- ・参加者による創作・編集・翻訳作品は、著作権保護の観点から不可です。出版社から出されている原著の縮約版などは可能ですが、必ずその旨を明記してください。
- ・制限時間を超えた場合は減点対象となりますので、ご注意ください。
- ・本大会の入賞者発表や演技中の様子は、南山大学の入試広報関係資料や公式ホームページ、公式Facebookに参加者の学校名、学年、氏名、写真、映像とともに掲載されることがありますので、予めご了承ください。また、当日は報道機関を招待しています。参加者の氏名等が報道されることもありますので、あわせてご理解いただきますようお願いいたします。

■審査基準

各発表は、解釈とプロソディー(発音・抑揚・リズムなど音声面)に関して審査します。作品に込められたメッセージをきちんと読解しているかどうか。読み手は、作者になりきってそのメッセージを伝えようとしているかどうか。音声表現のための英語の発音、抑揚、リズム、声の大きさなどは正確であり、内容にふさわしいものかどうか。さらに、読み手全員が一つにまとまり、聴衆に好印象を与えているかなどが審査のポイントとなります。

■表彰

コンテスト 1位, 2位, 3位

審査員賞 1位～3位受賞者を除き、ユニークな読み手3組

■オーラル インタープリテーション

読み手が英文の伝える内容を解釈し、それに合わせて声や表情、時には体や手に持つスクリプト自体を利用して聴衆に英語でメッセージを伝えるものです。演劇とは違い、読み手は聴衆に向かって話しかけます。ステージ上では互いに顔を見て話し、演技することはありません。衣装や大道具・小道具、また、いかなるマイクも使用できません。本学では、「イス」として使用できる黒の箱状のものを用意しますので、適宜お使いください。

音読の際には、声の大きさ、読む速さ、声の質、感情表現に注意します。またジェスチャーを用い、顔の表情や向き、視線の方向にも気を配ります。必要に応じて話

の内容に呼応した動きがあると良いかもしれません。黒色などの台紙に貼ったスクリプトは持って登壇しても構いません。暗記の再現を目指すより、読みながら伝えるという姿勢が好ましいでしょう。発表時には、読み手の立つ位置を決め、誰がスクリプトのどの部分を音読するか、他の読み手との連携にも注意します。

■ご案内

1. 本学講師が学校に出張し、直接生徒の皆さんにレクチャーすることも可能です。出張は受付順で8月末までとします(受付は7月末までとさせていただきます)。
2. OICに関する情報は、短期大学部ホームページに掲載しますので随時ご覧ください。

■お問合せ

OICについて

短期大学部合同研究室

電話: 052-832-3111 (代表)

メール: kokosei-oralinterp@nanzan-u.ac.jp